

## 第2回 総合計画審議会（全体会） 議事要旨

日 時 平成22年9月6日（月）午前10時00分～12時00分

場 所 横須賀市消防局庁舎4階災害対策本部室

出席委員 大西隆委員長、小林康彦委員長職務代理者、伊藤智委員、植竹喜三委員、大武勲委員、小野間重雄委員、影山清四郎委員、加藤茂雄委員、川名亘子委員、木村武志委員、木村忠昭委員、澤田信子委員、高須和男委員、高山英夫委員、土橋雅一委員、鳥居里美委員、永田翔吾委員、西原徹委員、林公義委員、原田昭一委員、細野助博委員、松本敬之介委員、室町泰徳委員、森川菜摘委員、吉川智教委員、吉村彰展委員、渡辺昌昭委員（以上27名）

事務局 吉田市長

都市政策研究所 松谷政策推進部長、福本課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 3名

議事内容

1. 審議
2. 答申
3. 委員長あいさつ
4. 市長あいさつ
5. その他

（大西委員長）

- ・ それでは定刻となりましたので、1月12日以来の全体会である、第2回総合計画審議会を開催します。事務局より資料の確認をお願いいたします。

（事務局）

- ・ 事前送付した資料から若干修正を加えていますので、席上配布した資料を改めてご覧ください。
- ・ 資料1「横須賀市基本計画（2011～2021）について（答申）（案）」、資料2「横須賀市基本計画（2011～2021）答申案 冊子イメージ」、資料3「8月24日付事務連絡で送付した答申案からの変更点」でございます。

### 1. 審議事項

（大西委員長）

- ・ 8月24日付事務連絡で委員の皆様には答申（案）を送付済みですので、お気づきの点があれば事務局まで連絡を入れていただいているはずですが、8月24日以降の変更点について審議をお願いいたします。

(事務局)

—資料 1、2、3 説明

(大西委員長)

- ・ 事務局が、これまでの意見をもとに修正案として作成したものです。資料 2 p. 30～35 の第 4 章の重点プログラムに属する重点事業に第 5・6 章の柱番号を付して両者の関係を示すのか、資料 2 p. 36～37 一覧表に重点プログラムの該当する箇所にマークするのか、あるいは両方を同時に示す 3 通りの方法があります。これについて、事務局はご意見をいただきたいとのことです。それでは、これから討議に入りたいと思いますので、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

(細野委員)

- ・ 第 4 章と第 5 章の両方に重点プログラムと各施策の関係性が示されていてもよいと思います。
- ・ ただし、資料 2 p. 36～37 の重点プログラムの一覧表に黒丸がついていない場合でも、「男女共同参画社会の形成」など、もう少し広く捉えれば重点プロジェクトと関係付けることができる柱もあります。また、「豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」に関しても「にぎわいを生むプログラム」と関係があるのではないのでしょうか。
- ・ 「黒丸●」の妥当性についても議論していただきたい。

(永田委員)

- ・ 資料 p. 36～37 の「関連する重点プログラム」は、各プログラムの頭文字を囲んだ文字で表現されていますが、凡例は重点プログラムの番号でもよいのではないのでしょうか。施策体系の番号と重複するため回避したのかもしれませんが、番号で示したほうがよいと思います。
- ・ 現在、印が 2 つ以上ついているプログラムもありますが、どこまで印をつけていいのか、制限のようなものはあるのでしょうか。もし、制限がないのであれば関係するものは「黒丸●」つけた方がよいと思います。

(土橋委員)

- ・ 重点プログラム自体が分野横断的であるため、資料 2 p. 36～37 の一覧の中で「黒丸●」が示されていない施策があるのは、整理が十分でないように思えます。全ての施策に「黒丸●」を示して何らかの関連性を示す必要があるでしょう。

(大西委員長)

- ・ 資料 2 p. 36～37 の一覧表の中で「黒丸●」がない場合や、2 つ以上「黒丸●」がついている場合がある点について、事務局は理由を説明してください。

(事務局)

- ・ 5 つの重点プログラムのそれぞれに 2 つずつ方向性を示していますが、これらとの関

連性をみて「黒丸●」をつけているので、もっと広く関連性を捉えれば「黒丸●」を増やすことができます。

(大西委員長)

- ・ 重点プログラムで位置づけられているか否かは、予算編成と関係性があるのでしょうか。

(事務局)

- ・ 実施計画を行う際には、「黒丸●」がついているものについて予算措置の際に優先されるという位置づけとなっています。

(大西委員長)

- ・ 資料2 p. 36～37 をみると、ほとんど「黒丸●」が記されていますが、10程度「黒丸●」がない施策があります。これらを見ると、以前から定常的に取り組んでいる施策となっています。重点プログラムは全てに割り振られているのではなく、最近着目されるべきものとして位置づけられていると思われませんが、意見をいただきたい。

(松本(敬)委員)

- ・ すべての施策が何らかの重点プログラムに関連づけられるべきだと思います。

(吉川委員)

- ・ 資料2 p. 36～37 の3-(1)-①に「子どもを産み育てやすい環境づくり」については、きわめて重要な施策です。待機児童の背後には働くことを希望していても、働けない母親がいます。仮に全ての待機児童が解消され、全ての母親が働けるようになれば、横須賀市民の所得の総額が1億円以上増加します。この規模の企業を誘致するのは難しいため、重要な施策ではないでしょうか。福祉的な視点だけでなく経済的な観点からも待機児童の解消は必要だと思います。その点を明確に示す必要があると思います。

(大西委員長)

- ・ 重点プログラムとの対応関係について、空欄を残している理由を先ほど補足しましたが、事務局としての考え方を教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 選択と集中の観点から空欄を残しておいてもよいと考えていましたが、選択と集中は予算時にも実行可能であるため、全ての施策に関連性をつけたほうがよいと思います。

(大西委員長)

- ・ では、10程度の施策が空欄となっていますが、いずれかの重点プログラムに対応させましょう。
- ・ 重点プログラムの表記は番号も付けるべきというご意見については、後ほど検討しま

す。

- ・ 2-(2)-③「豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」はどの重点プログラムに該当させるか、事務局の案はありますか。

(事務局)

- ・ にぎわいに貢献している面もあるので、「にぎわいを生むプログラム」がよいと考えています。

(大西委員長)

- ・ 2-(6)「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合」についてはどのように対応するべきでしょうか。

(事務局)

- ・ 米軍基地は集客に寄与しているため「にぎわいを生むプログラム」でよいと考えています。

(大西委員長)

- ・ 「返還施設の早期転用」について、長井海の手公園ソレイユの丘は既に転用されているため、このような事業を増やすという理解でよいでしょうか。

(事務局)

- ・ 「返還施設の早期転用」は、公園等の施設に転用されることが多いため、「にぎわいを生むプログラム」とともに「環境を守るプログラム」にも該当します。

(大西委員長)

- ・ 3-(4)-③「文化の担い手の育成」は「にぎわいを生むプログラム」でよいでしょうか。

(事務局)

- ・ 内容が生涯学習的な観点や、文化にふれる機会の充実などに関わる事業であるため、「命を守るプログラム」、「新しい芽を育むプログラム」がよいと思います。

(大西委員長)

- ・ 4-(1)-①「平和を愛する社会の形成」、4-(1)-②「人権を尊重する社会の形成」、4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」はどの重点プログラムに関連付けさせますか。

(事務局)

- ・ 様々な人の活動を守るため、いずれも「命を守るプログラム」が最も近いと思います。

(大西委員長)

- ・ 5-(2)-④「交通安全対策の推進」、5-(2)-⑤「消費者保護対策の推進」、5-(2)-⑥「食

品・環境衛生対策の推進」はどの重点プログラムに関連付けさせますか。

(事務局)

- ・ いずれも「命を守るプログラム」が最も近いでしょう。

(大西委員長)

- ・ 5-(3)-①「上水道事業の効率的な運営」は何に該当させますか。

(事務局)

- ・ 5-(3)-①「上水道事業の効率的な運営」は、安全でおいしい水の供給に関わるので「命を守るプログラム」が該当します。

(大西委員長)

- ・ 5-(3)-⑥「河川の管理」、5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」、5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」は何に該当させますか。

(事務局)

- ・ 5-(3)-⑥「河川の管理」は「環境を守るプログラム」、親水空間の確保という意味で「にぎわいを生むプログラム」に該当します。また、5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」、5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」については後ほど再度検討させていただきたい。

(大西委員長)

- ・ では、5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」については、再度検討することとします。
- ・ 第6章は比較的空欄が目立っています。まちづくりの推進姿勢の1-(1)-①「情報公開・個人情報保護の充実」はどの重点プログラムに対応させるべきでしょうか。

(事務局)

- ・ 一番わかりやすいのは、「地域力を育むプログラム」ですが、第6章の場合には全てが同プログラムに該当してしまう恐れがあります。

(大西委員長)

- ・ まちづくりの推進姿勢については全体をつらぬく横串である内容であり、重点プログラム全てに関連するため、全体的な取り組みのインフラとして第5章まちづくり政策とは別に扱うことでいかがでしょうか。

(事務局)

- ・ 第6章については、すべての重点プログラムに関連する位置づけと記載を改めさせていただきたい。

(大西委員長)

- ・ 2-(3)-⑤「産業を支える技術・人材支援」について対応する重点プログラムを議論していませんでしたが、これらはどの重点プログラムに対応させるべきでしょうか。

(事務局)

- ・ 「にぎわいを生むプログラム」がよいと思います。

(吉川委員)

- ・ 2-(3)-⑤「産業を支える技術・人材支援」は、「地域力を育むプログラム」が適しているのではないのでしょうか。

(大西委員長)

- ・ 「地域力を育むプログラム」は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」と、「地域を支えるコミュニティ機能の強化」が主となっており、産業振興は想定していないようなので、「にぎわいを生むプログラム」がよいと思います。
- ・ また、2-(4)-②「労働環境の改善」についてはどこに対応させるべきでしょうか。

(事務局)

- ・ 労働者の支援であれば、「にぎわいを生むプログラム」がよいと思います。

(大西委員長)

- ・ 先ほど検討を先送りにした5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」および5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」については、安全安心という観点から「命を守るプログラム」でよいのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ 5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」および5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」は、「命を守るプログラム」でよいと思います。

(大西委員長)

- ・ 重点プログラムは位置づける施策を絞り込んだほうが良いという考え方もありますが、今回は視点を変えて、まちづくり政策の目標という分類から戦略的に重点プログラムの1～5で政策のグルーピングをあらたに施すという観点になっています。その際の選択と重点化は基本計画の段階では行わず、予算編成を行う際に行うこととし、関連するものは広く位置づけていくこととします。
- ・ 資料2 p. 36では、2-(2)-③「豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」2-(3)-⑤「産業を支える技術・人材支援」2-(6)-①「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合の要請」は「にぎわいを生むプログラム」、2-(6)-②「返還施設の早期転用」は「環境を守るプログラム」および「にぎわいを生むプログラム」、3-(4)-③「文化の担い手の育成」は「新しい芽を育むプログラム」および「命を守るプログラム」に

それぞれ該当させます。

- 資料 2 p. 37 では、4-(1)-①「平和を愛する社会の形成」から 4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」また 5-(2)-④「交通安全対策の推進」から 5-(2)-⑥「上水道事業の効率的な運営」は「命を守るプログラム」、5-(3)-⑥「河川の管理」は「環境を守るプログラム」および「にぎわいを生むプログラム」、5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」および 5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」は「命を守るプログラム」にそれぞれ該当させます。
- また、第 6 章のまちづくりの推進姿勢は、全体に関わる制度として位置づけます。
- 資料 p. 30～35 にも各施策の枝番号を記載することは、p. 36～37 と重複していますがよいでしょうか。

(高須委員)

- 火葬場や市営住宅も同様であり、地域に関する環境にも配慮して位置づけていただきたい。また、「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合の要請」は、活用に関しては「にぎわいを生むプログラム」に関連するかもしれませんが、当面返還のめどは立っていないため、空白でもよいのではないのでしょうか。

(大西委員長)

- 空白ではなく、何らかの関係性を述べたほうがよいと思います。
- 重点プログラムとの関連付けについて、他に意見はありますか。

(土橋委員)

- 産業振興関係は、企業相手と自然相手の産業があり、それぞれ「にぎわいを生むプログラム」と「地域力を育むプログラム」に分かれるのではないのでしょうか。特に自然相手の産業だと、地域力が活性化されないと難しいのではないのでしょうか。

(大西委員長)

- 「地域力を育むプログラム」は、住民のボランティア活動が想定されており、2-(1)-①「自然環境の保全」が地域力について含まれています。どのような事業が「地域力を育むプログラム」に含まれるのでしょうか。たとえば、2-(2)-③「豊かな農水産物の供給を支える仕組みづくり」が含まれるのでしょうか。

(土橋委員)

- 2-(1)-③「自然豊かな公園・緑地」、2-(2)-③「豊かな農水産物を支える環境づくり」、2-(2)-②「意欲的な生産者への支援」が「地域力を育むプログラム」該当すると思います。2-(2)-②「意欲的な生産者への支援」は、行政の関与も重要ですが、現在農業者しか農業に参加していない点が指摘されているため、農家と近隣住民との協力が必要だと思います。

(高山委員)

- 先ほど、第5章が施策であり、第6章が施策を推進する戦術であるという説明をいただきました。
- 現状では、「地域力を育むプログラム」について住民の主体性やコミュニティなどだけに限られているなかで、多くは「地域力を育むプログラム」は第6章に関連づけられています。重点プログラムに関連する施策のバランスは、これで望ましいのでしょうか。
- もし、バランスがよくないと判断し、農業に関するものを地域力を含めて「黒丸●」を増やそうとすると、資料2 p. 34の「地域力を育むプログラム」の内容自体を変える必要があり、膨大な作業が必要になる可能性があります。
- 一方で、今回が総合計画審議会の最終回であることを考えると、重点プログラムの内容を変更せず、現行のように第6章を資料2 p. 36～37で示し、同章を「地域力を育むプログラム」に強く関連すると位置づけて方向性を示さないと、まとめることが困難になるのではないのでしょうか。

(大西委員長)

- 重点プログラムはいままで議論を重ねてきたこともあり、変更しないことにします。適用を広げることで対応したいと考えています。
- そういった意味では、「地域力を育むプログラム」は先ほどいくつかご指摘いただいたので、2-(1)-①「自然環境の保全」2-(1)-②「自然環境の積極的な創出」に関しては、「地域力」に位置づけることとします。ただし、農業に関連するものは農業者の役割が大きいため、直接的に「地域力を育むプログラム」に位置づけないことでしょうか。

(川名委員)

- 「自然環境の保全」については、大西委員長のご指摘のとおり、ボランティアの役割が大きくなっています。
- 「文化の担い手の育成」に関しては、浦賀の歴史の伝承を支えて継承する活動が行われており、担い手が育成されています。このように、横須賀市では地域のボランティアの方の役割が大きいため、「地域力を育むプログラム」に関連する施策として位置づけていただきたい。

(事務局)

- 全ての施策で、強弱はあっても市民と協力していく必要があります。計画の冒頭でも市民と計画を推進することについて言及しています。
- そのため、「地域力を育むプログラム」自体は、市民自治とそれを支える仕組みづくりを指していますが、全ての施策に該当するため、全体を通じて関連すると整理させていただきたくことでよろしいでしょうか。



(大西委員長)

- ・ 枠組みをつけているにも関わらず、全ての項目が「地域力を育むプログラム」に該当してしまうことは、望ましくありません。
- ・ また、「地域力を育むプログラム」をみると、5-1 と 5-2 でニュアンスの違いがあります。5-2「地域を支えるコミュニティ機能の強化」はボランティア活動に着目しており、先ほどの川名委員のご指摘はこれに該当すると思います。もし、全市民が具体的な担い手になっている市民グループに所属していればよいですが、現状では、特定の施策には関連させにくいのではないのでしょうか。
- ・ 5-(1)-④「市民協働による防災活動の促進」とありますが、これは「地域力を育むプログラム」には含まれないのでしょうか。

(影山委員)

- ・ この議論はきりが無いと思います。あくまでもイメージのレベルで関連性を議論しているため、あまり突き詰めた議論をすることに意味はないと思います。この審議会が政策が決定されているわけではないため、行政の遂行の中で優先順位を選ばれることがよいでしょう。そのため、大まかな範囲で結論付けられればよいと思います。

(大西委員長)

- ・ 大きな枠組みの中で議論してきましたが、地域力が第5章で1つしか該当しないことが問題として挙げられました。そのため、2-(1)-③「自然豊かな公園・緑地の整備」、2-(1)-②「自然環境の積極的な創出」、3-(4)-③「文化の担い手の育成」、5-(1)-④「市民協働による防災活動の促進」に関しては「地域力を育むプログラム」に「黒丸●」をつけます。
- ・ また、5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」、5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」については「環境を守るプログラム」に含めるということで良いのでしょうか。

(永田委員)

- ・ 2-(4)-②「労働環境の改善」については、「命を守るプログラム」にも含まれるのではないのでしょうか。また、4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」については、地域の活力に繋がるのであれば、「地域力を育むプログラム」に含まれるのではないのでしょうか。加えて、5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」に関しては、市営住宅を1つの市民組織として運営していくのであれば、「地域力を育むプログラム」に含まれるのではないのでしょうか。

(高山委員)

- ・ 資料2のp.36～37だけを見て検討すると、各重点プログラムの名称だけで判断して、そこから見る人によって多様なイメージが広がってしまう可能性があります。
- ・ しかし、各重点プログラムは実際には限定的な意味合いで使われており、p.30～35の説明内容も踏まえて検討すべきでしょう。またこうした観点からp.36～37の重点プログラムの標記については、名称は出さずに番号だけにした方が良いでしょう。

(大西委員長)

- p. 36～37 の重点プログラムの標記は、名称から連想し過ぎないように番号とします。
- 2-(4)-②「労働環境の改善」は、セーフティネットや労働災害とも関係があるので、「命を守るプログラム」も入れるべきだと思います。
- 4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」については、地域での活動は女性の方が活発であり、男性の参加率が低くなっていますが、検討する必要があるでしょう。
- 横須賀市では、市営住宅の管理を NPO などの市民組織が行っているケースはありますか。

(事務局)

- 横須賀市では、そのようなケースは見られません。

(大西委員長)

- あまり重点プログラムが多く「黒丸●」に該当することは望ましくないため、「市営住宅の管理」は「命を守るプログラム」および「環境を守るプログラム」に該当することとします。
- 4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」が「地域力を育むプログラム」に含まれることについては、川名委員からご意見ありますか。

(川名委員)

- 近年、町内会は女性の委員が多いため、男女共同参画と関連するといえなくもないと思います。ただし、この分野につきましては、あまり詳しくは述べることはできません。

(事務局)

- 男女共同参画を推進することで地域力が育まれるため、男女共同参画と地域力は関連していると思われます。
- 「環境を守るプログラム」は、自然環境と地球環境に関して整理していますが、「市営住宅の管理」や「火葬場・墓地の管理運営」は迷惑施設などの生活環境に関するイメージを想起します。そのため、「環境を守るプログラム」から外してはどうか。

(高須委員)

- 火葬場・墓地は老朽化しており、自然環境も問題になり、周囲の人の生活環境が悪化していると思えるため両方に該当すると思います。また、「市営住宅の管理」については、生活環境という意味で申し上げます。

(大西委員長)

- 「環境を守るプログラム」は、自然環境や地球環境が柱になっており、生活環境とは異なる論点であるため、「市営住宅の管理」や「火葬場・墓地の管理運営」について

は外します。

(西原委員)

- ・ 環境という文字が、自然環境、地球環境、生活環境、都市環境、労働環境など多用されているので、もう少し整理されたほうがよいでしょう。したがって、重点プログラムの名称も「自然環境を守るプログラム」にした方がよいのではないのでしょうか。特に生活環境は、意味合いが異なります。また、まちの環境であれば環境美化という言葉もあり積極的に環境をよくすることを指すこともあります。
- ・ 重点プログラム 5-2「地域を支えるコミュニティ機能の強化」の説明文では、「福祉、教育、環境、まちづくりなど様々な」に安全・安心という言葉を入れたほうがよいでしょう。

(大西委員長)

- ・ 「環境を守るプログラム」に「黒丸●」が付いている施策をみると、対象とする環境は全て自然環境か地球環境の範疇に含まれているので、現状にとどめることとします。
- ・ 重点プログラムの 5-2「地域を支えるコミュニティ機能の強化」について、安全・安心を書き込むという意見ですが、事務局の考えを教えてください。

(事務局)

- ・ コミュニティ活動の中で、地域の安全・安心を担っている実態を踏まえ、安全・安心という言葉は補おうと考えています。

(大西委員長)

- ・ 既に 5-(1)-④「市民協働による防災活動の促進」は「地域力を育むプログラム」として位置づけられていますが、5-(1)-③「防犯対策の推進」や 5-(1)-④「交通安全対策の推進」などについてはどうでしょうか。

(高山委員)

- ・ p. 30 のプログラム 2 に「安全で安心なまちづくり」があげられており、「地域力を育むプログラム」に安全・安心を記述すると、混乱するおそれがあるため、集約することでよいのではないのでしょうか。

(大西委員長)

- ・ 「地域力を育むプログラム」の説明文として安全・安心も列挙し、安全・安心について関連施策は「命を守るプログラム」で位置づけることでよいのでしょうか。

(事務局)

- ・ 重点プログラム 2-2 に「災害や犯罪への「自助・共助・公助」の枠組みを強化します」と記載されており、5-2 に安全・安心が記載されると重複感が生じます。「福祉、教育、環境、まちづくりなど」の「まちづくり」の中に安全・安心が含まれると解釈できる

ため、そこで対応するのはいかがでしょうか。

(大西委員長)

- ・ 重複については環境も同様であるため、趣旨をはっきりさせるという意味では、5-2に安全・安心を記載し、「地域力を育むプログラム」には安全・安心関連の施策についてあまり「黒丸●」を付けすぎないように対応することでよいのではないのでしょうか。

(林委員)

- ・ 「環境を守るプログラム」をみると、重点プログラムの3-2の「地球環境に貢献するまちづくり」の地球環境には社会環境に含まれるため、これと自然環境の2つで構成している方法はよいと思います。
- ・ ただし、「魅力ある都市景観づくり」や「自然・歴史を生かした景観づくり」については、最近の都市計画の景観づくりの中で、かなり自然環境に配慮したまちづくりが多くなっているため、「にぎわいを生むプログラム」だけではなく、「環境を守るプログラム」についても「黒丸●」が付いてもよいのではないのでしょうか。

(大西委員長)

- ・ 特に、3-(5)-②「自然・歴史を生かした景観づくり」に関しては、「自然」と触れられているため、「にぎわいを生むプログラム」とともに、「環境を守るプログラム」にも「黒丸●」が入ってもよいでしょう。
- ・ そろそろまとめに入ります。資料2p.30～35は、各項目に柱番号を記載することとします。また、p.34には、重点プログラムの5-2「地域を支えるコミュニティ機能の強化」について、「福祉、教育、環境、まちづくりなど」に安心・安全を追記します。
- ・ 資料2p.36では、2-(1)-①「自然環境の保全」および2-(1)-②「自然環境の積極的な創出」については重点プログラムの5-2「地域を支えるコミュニティの機能の強化」、2-(2)-③「豊かな農水産物の供給を支える環境づくり」2-(3)-⑤「産業を支える技術・人材支援」2-(6)-①「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合の要請」2-(4)-②「労働環境の改善」は「にぎわいを生むプログラム」、2-(6)-②「返還施設の早期転用」は「環境を守るプログラム」および「にぎわいを生むプログラム」、3-(4)-③「文化の担い手の育成」は「新しい芽を育むプログラム」「命を守るプログラム」「地域力を育むプログラム」、3-(5)-②「自然・歴史を生かした景観づくり」は「環境を守るプログラム」にそれぞれ該当させます。
- ・ 資料2p.37では、4-(1)-①「平和を愛する社会の形成」から4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」は、「命を守るプログラム」に該当させ、4-(1)-③「男女共同参画社会の形成」については「地域力を育むプログラム」にも該当させます。5-(2)-④「交通安全対策の推進」から5-(3)-①「上水道事業の効率的な運営」は「命を守るプログラム」、5-(3)-⑥「河川の管理」は「環境を守るプログラム」および「にぎわいを生むプログラム」、5-(3)-⑦「市営住宅の管理運営」および5-(3)-⑧「火葬場・墓地の管理運営」は「命を守るプログラム」にそれぞれ該当させます。

- ・ また、第6章のまちづくりの推進姿勢は、全体に関わる制度として位置づけ、表現については工夫をすることにします。
- ・ 資料2p.36～37の表頭については数字で表記することとします。
- ・ 他にご意見はありますか。（特になし）
- ・ 次いで、答申（案）について、何か意見はありますか。
- ・ 答申については、「〇〇件」と記載されているところには、本日の意見も踏まえて件数が記載される予定です。件数の中には採用されなかった意見もありますが、それも含めて重要な意見であるため今後の市政に配慮させることを希望している旨についても記載しております。また、審議会の賛同を得られていることを前提として、審議会の名前の下に、委員長名を付しております。
- ・ 答申案についてはよろしいでしょうか。（意見無し）
- ・ では、答申については案通りとさせていただきます。後ほど、事務局は件数を埋め、「（案）」を除いていただきます。では、答申を行いたいと思います。

## 2. 答申

－大西委員長から吉田市長へ答申の受け渡し

## 3. 委員長あいさつ

（大西委員長）

- ・ まず、委員の皆様にご挨拶申し上げます。多くの意見が出て、素案から改善されたよい計画案がまとまりました。
- ・ 横須賀市では人口が減少しつつあり、福祉、教育、暮らし、産業それぞれの場面で、厳しい状況にどのように対応していくのかが、計画に問われます。単純に厳しいという状況を超えて、このままいくと日本全体の人口が半分になるといった想像を超える状況が訪れることが予想されます。したがって、長期的には人口回復させるのか、若い人が暮らしやすい環境づくりをどう作っていくのか、しいては日本再建のためにはどうしたらよいのかという点に繋がると思います。長期的な視点を計画案から読み取っていただきたいと思います。また、当面の課題に対応するため、短期的な視点についても述べられています。この計画では、長期・短期両方の視点が組み込まれており、ぜひ、横須賀市政に活用していただきたいと考えています。
- ・ 横須賀市は意欲的に市政に取り組んできました。今後も日本の各市、アジア諸都市の参考となる、また、さきがけとなるよう市政に取り組んでいただきたいと思います。
- ・ 委員長による進行はここまでとさせていただきます、事務局に進行をお願いします。

## 4. 市長あいさつ

（吉田市長）

- ・ 答申確かに受け取りました。これまで長い間、ありがとうございました。
- ・ 900件以上の意見に加え、本日も活発なご意見を多数いただいたので、全ての意見をあわせると1,000件に届くのではないのでしょうか。本日の議論からも様々な視点からご意見いただいたということが推し量ることができました。

- 現在の横須賀市の状況は厳しい状況にあります。人口減少、企業の撤退、税収の減少から財政的にも危機的な状況となっています。こうした中、今後 11 年間で指し示す基本計画の諮問に答申を頂き本当に感謝しております。
- 時代は地域主権の時代に入ったといわれております。そのため、地域主権の時代にふさわしい計画の推進が求められています。横須賀市でも自治基本条例の策定や地域運営協議会の設立など、住民自治に力点を置いたまちづくりを進める中で、基本計画の位置づけは、大変重要だと考えています。
- 計画は作るだけではなく計画の実施が重要です。計画の実施にあたっては、審議会委員のご意見、加えて市民のご意見、議会のご意見などの様々のご意見を記録に残し、これらの意見に立ち返っていきたいと考えています。
- 答申では今年渡米 150 周年を迎えた咸臨丸の例が挙げられていましたが、今後 11 年間の羅針盤を与えられたと考えています。基本計画に沿って対応していくことが、答申を受けた側の責務だと考えています。市政運営にあたっては、今後とも委員のみなさまの協力をお願いしたいと思います。
- 長い間、本当にありがとうございました。

## 5. その他

(以上)